

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月 9日現在

機関番号：14303

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21320021

研究課題名（和文） 1890-1950年代日本における《語り》についての学際的研究

研究課題名（英文） The interdisciplinary research of the 《Katari》 in Japan from 1890's to 1950's

研究代表者

伊藤 徹 (ITO TORU)

京都工芸繊維大学・工芸科学研究科・教授

研究者番号：20193500

研究成果の概要（和文）：1890年代から1950年代の日本において、知識人や芸術家たちを支えた《語り》を主題とする本研究は、哲学、政治学、経済学、文学、建築、美術工芸、演劇などの諸局面で、それが、どのような形で生産され、また消費されていったのか、その具体相を明らかにした。《語り》とは、近代化によって従来の生の地盤を掘り崩された後に生じた空隙を埋めるべく創出された、共同的な基礎的虚構群を意味する。本研究は、自己産出的な幻想によって自己を支える構造を、当該の時代の精神史の内に見出した。

研究成果の概要（英文）：The subject of this research is the 《Katari》 which underlay the intellectuals and artists in Japan from 1890's to 1950's. We examined how the 《Katari》 was produced and consumed in the fields such as philosophy, political and economic thoughts, literature, architecture, crafts, fine and dramatic arts and so on. The 《Katari》 means the common fundamental fictions. They were created in order to fill the vacancy, which arose after the modernization had destroyed the traditional livelihood. This research revealed the structure of sustaining oneself by self-produced illusion.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2010年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2011年度	2,900,000	870,000	3,770,000
年度			
年度			
総計	11,100,000	3,330,000	14,430,000

研究分野：哲学

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：思想史、哲学、政治学、文学、建築史・意匠

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、2006年度から2年に亘るサントリー文化財団による基づく共同研究「1910-30年代日本における《作ること》の諸相とその精神史的意味」（研究代表者：伊藤徹）から出発し、平成19年度基盤研究(B)「作ることの視点における1910-40年代日本近代化過程の思想史的研究」（19320019）を経た上で、研究

分担者および研究協力者が加えて編成しなおす形で開始された。

## 2. 研究の目的

本研究は、日本近代の思想史的地盤を探求するため、1890-1950年代の政治学、経済学、歴史学、建築、美術工芸、文学、演劇、哲学という諸局面に露出した《語り》という精神

史的現象を、「日本的なもの」をキーワードに具体的かつ学際的に調査するとともに、この時代を貫く科学技術化の動向との連関を解明し、その成果を海外に発信していこうとする試みである。その場合の《語り》とは、人間の生の地盤となるものを生み出す力であり、根拠づけがたい虚構として具体化されているものであるが、本研究は、上記歴史的時期におけるそうした神話的虚構の生成の具体相とそのメカニズムを解明し、以てジャンルごとに分断されがちな精神的現象に統一像を与えようとして企画された。

### 3. 研究の方法

- (1) 京都工芸繊維大学造形工学部門・伊藤研究室内に運営センターを設置し、情報の集積・交換、その他事務手続きなどを行なった。
- (2) 4つの研究グループ (①社会についての語り、②造形物についての語り、③文学の語り、④語りの哲学的反省) に研究分担者・協力者を配置して、情報収集と分析を行なった。
- (3) 総計 13 回の会合をもち、情報の共有化ならびに全体での検討を行ない、それを基に論文、口頭発表、著書などのかたちで公表した。

### 4. 研究成果

本研究の成果は、明治後半から戦後に到る日本の近代化過程のなかで人々が、自らの生を支えるべく生み出していった《語り》、すなわち虚構的な神話が、精神史の諸局面で、どのような形で生産され、また消費されていったのか、その具体相を明らかにしたところにある。扱われた知識人・芸術家を挙げるならば、以下のとおりである。浅井忠、葦津珍彦、石川欽一郎、泉鏡花、宇野千代、岡本太郎、小山内薫、川上音二郎、九鬼周造、今和次郎、清水幾太郎、下村寅太郎、高村豊周、谷崎潤一郎、丹下健三、陳澄波、津田左右吉、寺山修司、富本憲吉、夏目漱石、西田幾多郎、西谷啓治、野島康三、長谷川如是閑、花田清輝、樋口一葉、馮小剛、船山信一、丸山真男、三木清、三宅雪嶺、村岡典嗣、村野藤吾、柳宗悦、夢野久作、吉原治良、バーナード・リーチ、和辻哲郎など。

これらの人々が自ら紡ぎ出し依拠した《語り》の具体的分析の詳細は、5 にその一部を挙げた個々の論文、図書、講演などに譲るほかないが、概括していえば、そもそも問題にされた《語り》とは、近代化によって従来の生の地盤が掘り崩されたあとに生じた空隙を補填すべく生み出されていった虚構である。それらは、多くの場合、しかも戦後に到ってさえ、「日本的」という言葉と結びついて生成したが、いうまでもなくそれらが、「実体」として支えとなる「日本」を「発見」することなどありえないわけで、自ら紡ぎ出した幻影によって自分自身を吊り上げるとで

もいった構造それ自体が、その本体だといふべきであろう。これは、知識人・芸術家のそれぞれの活動ジャンルを超え、またそれぞれが志向する「日本」イメージの差異にもかかわらず、一つの共通する自己存在の基本的なカタチとして、取り出されうるものであって、そうしたカタチを、近代化の過程のなかでのアイデンティティ喪失の自覚と結びつけるならば、この運命を共に蒙った地域、しかもいち早く近代化産業化に習熟した日本を介するという捻じれた仕方で、それに巻き込まれた近隣東アジアにおける知識人の自己イメージを測る理念型が得られるであろう。さらにそれは、この運命の発生源でもある欧米文化のなかの人間の自己理解の測定にも寄与すると考えられるのである。

研究は、こうした《語り》の上で造形された自己のカタチの変移を「主体性」の概念の歴史として探究する新しい企画へと発展し、平成 24 年度基盤研究(B)「《主体性》概念を基軸とした日本近代化過程における《自己》造形に関する学際的研究」(24320023)として採択されるに到った。新しいこのプロジェクトは、従来の共同研究グループをベースに、さらに新しい参加者を加え、より多角的に日本近代の精神史を探究するはずである。

最後に掲げておきたいのは、海外研究者との交流の基礎を築いたことである。すでに前基盤研究から準備されてきた交流は、平成 23 年 3 月、第 9 回研究会合を台湾大学日本語学系の協力を得て日台の文化研究者による研究報告の討議として行うというカタチで具体化された。さらに台湾、連合王国、ドイツ、スイスなどの主要大学での講演によって、当研究の海外発信が果たされただけでなく、今後の交流の展開の可能性が確保されたことも成果の一端をなしている。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 39 件)

1. ITO, Toru(伊藤徹), Natsume Sōseki und die Zwecklosigkeit des Lebens als das Wesen der Modernisierung, *Asiatische Studien LXVI/1/2012*, Schweizerische Asienengesellschaft, S. 103-128, 査読有、Bern 2012
2. 昆野伸幸、「近代日本の国体論——教育勅語・『国体の本義』・平泉澄」『近代』第 106 号、神戸大学「近代」発行会、29 - 46 頁、査読無、2012 年 3 月
3. 松隈洋、「京都会館一再読関西近代建築」、『建築と社会』、1079 号、社団法人日本建築協会、31-34 頁、査読無、2012 年 2 月

4.松隈洋、「「神奈川県立図書館・音楽堂」と建築家・前川國男の求めたもの」、『郷土神奈川』、第50号、神奈川県立図書館、1-17頁、査読無、2012年2月

5.松隈洋、「京都會館と前川國男の求めたもの④」、『ねっとわーく京都』、276号、刊行元名、57-62頁、査読無、2012年1月

6.松隈洋、「京都會館と前川國男の求めたもの③」、『ねっとわーく京都』、275号、特定非営利活動法人ねっとわーく京都 21、41-46頁、査読無、2011年12月

7.松隈洋、「京都會館と前川國男の求めたもの②」、『ねっとわーく京都』、274号、特定非営利活動法人ねっとわーく京都 21、67-72頁、査読無、2011年11月

8.松隈洋、「京都會館と前川國男の求めたもの①」、『ねっとわーく京都』、273号、特定非営利活動法人ねっとわーく京都 21、55-60頁、査読無、2011年10月

9.若林雅哉、「アニメーション作品における出題と解答(?) — 視聴者によるシテーション認識とその受容プロセスについて」、『関西大学文学論集』、第61巻第2号、関西大学文学部、29-45頁、査読無、2011年9月

10.荻野雄、「清水幾太郎における自然と人為(1) — 関東大震災の経験 —」、『京都教育大学紀要』、第119号、京都教育大学、123-138頁、査読有、2011年9月

11.荻野雄、「清水幾太郎における自然と人為(2) — 平和運動と転向 —」、『京都教育大学紀要』、第119号、京都教育大学、139-153頁、査読有、2011年9月

12.松隈洋、「連綿と続く歴史の中へ(建築家・白井晟一)」、『コンフォルト』、121号、建築資料研究社、122-123頁、査読無、2011年8月

13.秋富克哉、「われわれにとってのハイデッガー技術論の意義」、『西洋哲学研究』、創刊号、西洋哲学研究会(三宅アーベント)編、3-22頁、査読無、2011年7月

14.長妻三佐雄、「記録でもなく、征服でもなく — 近代日本における『登山』観」、『大阪商業大学アミューズメント産業研究所紀要』、第13号、大阪商業大学アミューズメント産業研究所、39-48頁、査読有、2011年6月

15.平井直樹・石田潤一郎・笠原一人、「村野藤吾設計による「海軍将校倶楽部」の建

設・移築経緯」、『日本建築学会近畿支部研究報告集』、第51号計画系、日本建築学会近畿支部、889-892頁、査読無、2011年6月

16.秋富克哉、「『禅の立場』における西谷啓治の宗教哲学的立場」、実存思想論集、第26号、実存思想協会編、79-100頁、査読無、2011年6月

17. ITO, Toru(伊藤徹)、The spirits of the age in modern Japanese art and its philosophical significance — Some remarks on Yuichi Takahashi, the “Shirakaba” school, and Ryuhshi Kawabata etc.、『東西学術研究所紀要』、第44輯、関西大学東西学術研究所、35-53頁、査読無、2011年4月

18.松隈洋、「新たな時を刻み始めて — 前川國男自邸の今」、『住宅建築』、426号、建築資料研究社、92-97頁、査読無、2011年4月

19.秋富克哉、「西谷啓治におけるニヒリズムと近代日本の問題」、『点から線へ』、第58号、西田幾多郎記念哲学館、2-35頁、査読無、2011年3月

20.伊藤徹、「岡本太郎・主体性の神話 — 対極主義とその亀裂」、『京都工芸繊維大学学術報告書』、vol.4、京都工芸繊維大学紀要委員会、73-92頁、査読有、2010年10月

21.笠原一人、「本野精吾 — その資料整備・建物一般公開・展覧会 —」、『2010年度日本建築学会大会(北陸)建築歴史・意匠部門研究懇談会資料 近・現代建築のアーカイヴスとドキュメンテーション』、日本建築学会建築歴史・意匠委員会、45-47頁、査読無、2010年9月

22.佐々木幹郎、樋口覚、西村将洋、「西條八十と中原中也 — 大衆文化の成立と流行をめぐって」、『中原中也研究』、第15号、中原中也記念館、40-74頁、査読無、2010年8月

23. 松隈洋、「吉田鉄郎の求めたもの — 北欧と日本建築、そして戦時下の思考」、『ヒストリア』、第220号、大阪歴史学会、20-31頁、査読無、2010年6月

24.若林雅哉、「『詩学』と(その)アダプテーション」、『ギリシャ哲学セミナー論集』、第7巻、ギリシャ哲学セミナー、17-30頁、査読無、2010年3月

25. 昆野伸幸、「近代日本における祭と政—  
—国民の主体化をめぐる」、『日本史研究』、  
第 571 号、日本史研究会、117 - 140 頁、査  
読無、2010 年 3 月

26. 笠原一人、「上野伊三郎の建築活動につ  
いて」、『日本建築学会計画系論文集』、第  
649 号、日本建築学会、pp.727-736、査読  
有、2010 年 3 月

27. 松隈洋、「丹下健三と記念碑的造形—モ  
ニュメンタリズム—をめぐる」、『住宅建  
築』、2009 年 12 月号、建築資料研究社、  
86-93 頁、査読無、2009 年 12 月

28. 笠原一人、「日本インターナショナル建  
築会における香野雄吉の活動について」、  
『日本建築学会計画系論文集』、第 644 号、  
2271-2276 頁、査読有、日本建築学会、2009  
年 10 月

29. 伊藤徹、「過去へのまなざし—『硝子  
戸の中』の頃の夏目漱石」、『日本哲学史  
研究』、第 6 号、京都大学大学院文学研究  
科日本哲学史研究室、1-28 頁、査読無、  
2009 年 10 月

30. 笠原一人、「村野藤吾設計「静岡歌舞伎  
座」について」、『日本建築学会学術講演梗  
概集』、F-2 建築歴史・意匠、日本建築学会、  
247-248 頁、査読無、2009 年 8 月

31. 松隈洋、「坂倉準三の木造住宅 1941~  
1955—その造形の変遷から見えてくるこ  
と」、『住宅建築』、2009 年 7 月号、建築資  
料研究社、17-22 頁、査読無、2009 年 7 月

32. 西川貴子、「消え去りゆく<声>—佐藤  
春夫「奇談」を読む—」、『日本文学』第 58  
巻 7 号、日本文学協会、60-64 頁、査読有、  
2009 年 7 月

33. 伊藤徹、Die Industrialisierung und die  
Kunst in der japanischen Moderne—Die  
Mythen im technischen Zeitalter、『京都工  
芸繊維大学学術報告書』、vol.3、京都工芸  
繊維大学紀要委員会、43-57 頁、査読無、2009  
年 7 月

34. 平井直樹・石田潤一郎・笠原一人、「村  
野藤吾設計の三重海軍航空隊施設群につ  
いて」、『日本建築学会近畿支部研究報告集』、  
第 49 号計画系、日本建築学会近畿支部、  
745-748 頁、査読無、2009 年 6 月

35. 笠原一人、「村野藤吾設計「日本聖公会  
大阪聖ヤコブ教会」について」、『日本建築  
学会近畿支部研究報告集』、第 49 号計画系、  
日本建築学会近畿支部、741-744 頁、査読

無、2009 年 6 月

36. 昆野伸幸、「村岡典嗣の中世思想史研究」、  
『季刊日本思想史』、第 74 号、ペリかん社、  
9 - 28 頁、査読無、2009 年 6 月

37. 秋富克哉、「ハイデガーと西谷啓治—  
ニーチェ解釈をめぐる」、Heidegger  
Forum、vol.3、ハイデガー・フォーラム編、  
46-55 頁、査読無、2009 年 5 月

38. 伊藤徹、「砂の中で狂う泥鰌—夏目漱  
石『行人』の語り」、『東西学術研究所紀要』、  
第 42 輯、関西大学東西学術研究所、1-40  
頁、査読無、2009 年 4 月

39. 荻野雄、「沈黙の共同体から語りの協同  
体へ—戦前期大熊信行の思想—」、『京都  
教育大学紀要』、第 114 号、京都教育大学、  
31-47 頁、査読有、2009 年 3 月

〔学会発表〕(計 12 件)

1. 笠原一人、「南地区センタービルの設計に  
おいて村野藤吾が目指したもの」、日本建築  
学会近畿支部、千里市民センター、2011 年  
9 月 19 日

2. 西川貴子、「Spatial Transformations in  
Izumi Kyoka's *A Map of Shirogane*」、  
Pre-modern, Modern, Contemporary. A  
Return Trip from the West: Learning in,  
about and from Japan、ディミトリエ・カ  
ンテミル大学(ルーマニア)、2011 年 8 月  
30 日

3. 西川貴子、「Tangible Narratives: The  
Significance of Architecture in Modern  
Japanese Literature」、The architecture of  
transformation: changing perceptions of  
space in Izumi Kyōka's *A Map of  
Shirogane*、13th International  
Conference of EAJS、タリン大学(エストニ  
ア)、2011 年 8 月 25 日

4. 西川貴子、「幸田露伴「平将門」論—<言  
葉>をめぐる物語—」、日本近代文学会関西  
支部春季大会、2011 年 6 月 11 日

5. 松隈洋、「地域資源としての近代建築と坂  
倉準三の仕事」、日本建築学会東海支部  
2011 年 6 月 11 日 岐阜市民会館

6. 長妻三佐雄、「三宅雪嶺における有機体的  
国家観の展開—ナショナリズムと多様性の  
思想」、政治思想学会研究大会、姫路獨協大  
学、2011 年 5 月 28 日

7. 松隈洋、「レイモンドと日本」日本建築学  
会東海支部 2010 年 9 月 18 日 三重大学

8. 西川貴子、「佐藤春夫「更生記」論—「半狂」の空間—」、慶應義塾大学国文学研究会、慶應義塾大学、2009年11月14日
9. 昆野伸幸、「近代日本における祭と政—国民の主体化をめぐる—」、日本史研究会、佛教大学、2009年10月11日
10. 秋富克哉、「西谷啓治における「近代日本」とニヒリズム」、日本宗教学会第68回学術大会、京都大学、2009年9月13日
11. 笠原一人、「村野藤吾設計「静岡歌舞伎座」について」、日本建築学会、東北学院大学、2009年8月28日
12. 笠原一人、「村野藤吾設計「日本聖公会大阪聖ヤコブ教会」について」、日本建築学会近畿支部、大阪工業技術専門学校、2009年6月20日

〔図書〕(計30件)

1. 松隈洋ほか、『原発と建築家』、学芸出版社、全231頁、2012年3月
2. 長妻三佐雄、『三宅雪嶺の政治思想—「真善美」の行方』、ミネルヴァ書房、全210頁、2012年3月
3. 松隈洋・石田潤一郎監修、笠原一人総括、『第11回村野藤吾建築設計図展—新出資料に見る村野藤吾の世界—』、京都工芸繊維大学美術工芸資料館、全174頁、2012年2月
4. 井上克人編、伊藤徹、長妻三佐雄、若林雅哉ほか、『豊穰なる明治』、関西大学出版部、全262頁、2012年1月
5. 笠原一人監修、『復刻版 現代建築』、国書刊行会、全1004頁、2011年12月
6. 松隈洋ほか、『シャルロット・ペリアンと日本』、「シャルロット・ペリアンと日本」研究会編著、鹿島出版会、全327頁、2011年11月
7. 西村将洋編、西村将洋ほか『芸能と見世物』(コレクション・モダン都市文化、第4期第68巻)、ゆまに書房、全1036頁、2011年9月
8. 筑紫野市文化会館編、西川貴子ほか『杉山家5代を語る』、全29頁、2011年9月
9. 西村将洋編、西村将洋ほか『VOUクラブの実験』(コレクション・都市モダニズム詩誌 第14巻)、ゆまに書房、全793頁、2011年4月
10. 鈴木貞美編、西村将洋ほか『『Japan To-day』研究—戦時時期『文藝春秋』の海外発信』、作品社、全357頁、2011年3月
11. 松隈洋、『坂倉準三とはだれか』、王国社、全214頁、2011年3月
12. 松隈洋監修、石田潤一郎・笠原一人ほか、『もうひとつの京都—モダニズム建築から見えてくるもの—』、京都工芸繊維大学美術工芸資料館、全244頁、2011年2月
13. Yoshihiro Nitta / Tani Toru (Hg.), ITO Toru(伊藤徹), *Phänomenologie in Japan I*, Nitta, S.324, Würzburg 2011
14. 伊藤徹(編著)、秋富克哉、荻野雄、笠原一人、長妻三佐雄、西村将洋ほか『作ることの日本近代—一九一〇—一九四〇年代の精神史』、世界思想社、全310頁、2010年10月
15. 米山勇・笠原一人ほか、『日本近代建築大全 西日本篇』、講談社、全304頁、2010年7月
16. 中村明編、西村将洋ほか『日本語 文章・文体・表現事典』、全832頁、朝倉書店、2010年6月
17. 石田潤一郎・松隈洋・笠原一人ほか、『村野藤吾研究』第1号、村野藤吾の設計研究会、全74頁、2010年4月
18. 松隈洋ほか、『日本建築様式史』、美術出版社、全226頁、2010年4月
19. 飯田祐子・日高佳紀・日比嘉高編、西川貴子ほか『文学で考える<仕事>の百年』、双文社、全201頁、2010年3月
20. 多木浩二・飯島洋一・五十嵐太郎・笠原一人ほか、『現代建築家99』、新書館、全238頁、2010年2月
21. 松隈洋監修・笠原一人企画総括、『建築家・本野精吾—モダンデザインの先駆者—』、全214頁、2010年1月
22. 笠原一人ほか、『につぼんの客船—タイムトリッパー』、INAX出版、全80頁、2010年
23. 米原謙・長妻三佐雄編、長妻三佐雄ほか『ナショナリズムの時代精神 幕末から冷戦後まで』、萌書房、全283頁、2009年11月
24. 菊竹清訓・長谷川堯・笠原一人ほか、『村野藤吾建築案内』、TOTO出版、全342頁、全2009年11月
25. 西村将洋編、西村将洋ほか『パリへの憧憬と回想—「あみ・ど・ぱり」III』(ライブラリー・日本人のフランス体験 第5巻)、柏書房、全616頁、2009年7月

26. 松本和也ほか編、西村将洋ほか『新世紀 太宰治』、双文社出版、全 298 頁、2009 年 6 月
27. 和田博文ほか編、西村将洋ほか『言語都市・ロンドン 1861-1945』、藤原書店、全 685 頁、2009 年 6 月
28. 笠原一人・三宅拓也・平井直樹・松下迪生、『関西戦後建築総覧暫定リスト—京都府版—』、日本建築学会近畿支部近代建築部会、215 頁、2009 年 6 月
29. 疋田雅昭・日高佳紀・日比嘉高編著、西川貴子、西村将洋ほか『スポーツする文学—1920—30 年代の文化詩学』、青弓社、全 332 頁、2009 年 6 月
30. 和田博文編、西村将洋ほか『戦後詩のポエティクス 1935～1959』、世界思想社、全 318 頁、2009 年 4 月

〔その他〕

海外招待学術講演

1. 秋富克哉、„Über den Nihilismuns — Heidegger und Keiji Nishitani“、カンピナス大学 (ブラジル・サンパウロ市)、2010 年 9 月 22 日
2. 秋富克哉、„Die Ortlogik und die Topologie des Seins — Nishida und Heidegger“、国際会議「20 世紀哲学における西田幾多郎」、ヒルデスハイム大学(独)、2011 年 9 月 7 日
3. 秋富克哉、„Keiji Nishitani als das „Zwischen“ von Heidegger und Nishida—Über den Nihilismus“、メスキルヒ市 (独)、2011 年 9 月 10 日
4. 伊藤徹、「柳宗悦とワシリー・カンディンスキー——「反復」の概念」、朝陽科技大学、2009 年 12 月 8 日
5. 伊藤徹、“The spirits of the age in modern Japanese art and its philosophical significance—Some remarks on Yuichi Takahashi, the “*Shirakaba*” school, and Ryuhshi Kawabata etc.”、ロンドン大学(連合王国)、2010 年 5 月 7 日
6. 伊藤徹、„Natsume Sôseki und die Zwecklosigkeit des Lebens als das Wesen der Modernisierung“、ハイデルベルク大学(ドイツ)、2010 年 5 月 12 日、ベルリン・フンボルト大学(ドイツ)、2010 年 5 月 18 日
7. 伊藤徹、「デザイナーとしての浅井忠」、明志科技大学(台湾)、2010 年 11 月 18 日

8. 伊藤徹、“Natsume Sôseki and the fine arts :an attempt of Kusamakura as an imagery novel”、エジンバラ大学(連合王国)、2011 年 5 月 23 日
9. 伊藤徹、„Natsume Sôseki und die Zwecklosigkeit des Lebens als das Wesen der Modernisierung“、チューリヒ大学(スイス)、2011 年 5 月 31 日
10. 伊藤徹、「日本のかたち——伝統の「固有性」」、東海大学(台湾)、2012 年 2 月 29 日
11. 西川貴子、「カオスの描かれ方——一九三〇年代の探偵小説に見る「満洲」——」、大連外語学院大学、2010 年 10 月 29 日

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

伊藤 徹 (ITO TORU)

京都工芸繊維大学・工芸科学研究科・教授  
研究者番号：20193500

### (2) 研究分担者

秋富 克哉 (AKITOMI KATSUYA)

京都工芸繊維大学・工芸科学研究科・教授  
研究者番号：80263169

荻野 雄 (OGINO TAKESHI)

京都教育大学・教育学部・准教授  
研究者番号：50293981

笠原 一人 (KASAHARA KAZUTO)

京都工芸繊維大学・工芸科学研究科・助教  
研究者番号：80303931

昆野 伸幸 (KONNO NOBUYUKI)

神戸大学・国際文化科学研究科・准教授  
研究者番号：00374869

西川 貴子 (NISHIKAWA ATSUKO)

同志社大学・文学部・准教授  
研究者番号：20388036

西村 将洋 (NISHIMURA MASAHIRO)

西南学院大学・国際文化学部・准教授  
研究者番号：70454923

松隈 洋 (MATSUKUMA HIROSHI)

京都工芸繊維大学・美術工芸資料館・教授  
研究者番号：80324721

長妻 三佐雄 (NAGATSUMA MISAŌ)

大阪商業大学・総合経営学部・准教授  
研究者番号：80399047

若林 雅哉 (WAKABAYASHI MASAYA)

関西大学・文学部・准教授  
研究者番号：30372600